こちら特報部

懲役・禁錮一本化で管理強化？
「新自由刑」に疑問

自分を見つめ犯した罪を理解することが大切

指導強制「更生につながらず」

マザーハウスの活動には現在、全国の刑務所から約八百人の受刑者が参加している。支援した元受刑者で、再び犯罪に手を染めた人もいる。「加害者支援とは何ごとだ」と批判を受けることもある。

それでも五十嵐さんは出所者の就職相談を受け、生活費がない人が生活保護を申請する際の手助けもする。「加害者も生きていかなくてはならないからだ。

国も「更生」に力を入れる必要は、認識しているようだ。だから法制審議会（法制審）で新自由刑の議論が出ている。

懲役刑と禁錮刑の区別をなくし、これまでの作業に加え、改善指導、教科指導などを義務付けるもの。法制審の部会で昨年十一月に示された素案では、新自由刑を「作業を行わせることその他の矯正に必要な処遇を行うものとする」と定義している。

今の刑務所でも、薬物依存などをやめるための更生プログラムを受ける「改善指導」や、学校教育の内容を学ぶ「教科指導」も行っている。新自由刑になると、作業の時間が減り、これら指導の時間がさらに長くなるとみられる。

もう一つ、新自由刑が出てくる現実的な事情がある。受刑者の高齢化だ。

一九九八年以降、六十五歳以上の入所受刑者は増加傾向にあり、二〇一七年は二千二百七十八人で全体の一割強を占める。二十年前と比べて総数で三倍超に増えた。車いすや介護が必要な人も増え、障害がある受刑者もいる。以前と同じような作業をさせるのが、難しくなっている。

結構な議論のようだが、警鐘を鳴らす専門家がいる。「更生」を口実に、刑務所が受刑者を管理しやすくするだけではないのか。そんな疑問が出ているのだ。

「法制審の議論は、新自由刑でも刑務所が管理しやすいよう、懲役刑に一元化する方向に進みがちだ」。龍谷大学犯罪学研究センター長の石塚伸一教授（犯罪学）は語る。石塚氏が危ぶんでいるのは、「改善指導を受けることを義務化」すること。禁錮刑での作業のような、やるかやらないか受刑者自身で判断できる余地を減らし、より厳しい懲役刑に一本化してしまう、ということだ。

石塚氏は「指導も教育も、刑務所が受刑者に強制的にさせるのでは効果が望めない」。懲役刑の作業が定められたのは明治時代。当時は教育制度が整っておらず、貧困にあえぐなどして犯罪に手を染める人も多かった。「受刑者が社会復帰後に自立して生きるには自分で考えて判断する能力が必要だ。そうした視点で刑罰のあり方を考えるべきだ」と禁錮刑に一本化した方が時代に沿うと考える。

一橋大の本庄武教授（刑事法）も「義務化」を危険視する。「教育や改善指導を刑罰として義務付けるのは、受刑者の内心に無理やり介入すること。大きな問題をはらむ」と語る。

本庄氏によると、性犯罪や薬物依存受刑者が受けている更生プログラムは、自らの考え方や行動を見つめ直して修正する「認知行動療法」などが取り入れられている。「プログラムも受ける人間にやる気がないと効果が薄い。作業を減らしてこうした指導を強制的に増やすだけでは、意味がないのではないか」

前出の五十嵐さんも「刑務所が指導や教育を押しつけるだけなら、更生に役立つとは思えない」と考える。「口先だけの反省でなく、罪を償うために大切なのは受刑者が自分を見つめ、犯した罪を理解することだ。刑務所で必要なのは、そういった機会を増やすことだ。元受刑者たちの声も聞いた上で、刑罰のあり方を考えてほしい」

マザーハウスでコーヒーの袋詰め作業をする人たち＝東京都墨田区で

石塚伸一教授

デスクメモ

ある出所者。有り金をはたいて実家に帰った。父は死に、だれもいない。小窓から家に入り、水だけで三日間過ごした。こんな境遇になったらどうしますか？　助けがなければ犯罪に手を染める人もいるだろう。刑務所の教育どころではない。この出所者は冤罪（えんざい）だった。（裕）

2019・2・3

本音のコラム

二郎（じろう）

基幹統計のずさんさが明らかになり、アベノミクスが効果を上げているかどうか、疑念が広がっても生まれておらず、日本を引っ張る技術がないことに強い危機感を表明している。日本は老いているという指摘に、門外漢の私も共鳴した。

安倍政治の最大の罪は、世の中に根拠のない多幸感をまき散らしている。「更生」を口実に、刑務所が受刑者を管理しやすくするだけではないのか。そんな疑問が出ているのだ。

話題の発掘

嵐活動休止発表

一月二十七日の人気グループ「嵐」の活動休止発表には多くの人が驚いたに違いない。来年末まで活動を続けるというし、会見も笑顔に包まれていたから、SMAP解散時の教訓を生かして、発表の仕方は相当考えられた？

『週刊文春』2月7日号は「嵐を崩壊させた大ライデー」にすっぱ抜かれ、謝罪する羽目に陥っていた。

大野はもともと目立つことが好きなタイプではなく、はっきり言って芸能ることに疲れたというのが彼の偽らざる本音。

感じるようになっていたというわけだ。

それは大野さん以外も感じていたようで、『女性セブン』の記事ではこう書かれている。「昨年春、二宮はジャニーズ事務所幹部に詰め寄ったという。『自分は、嵐も事務所から辛くなってきたから

2019.2.3

東京歌壇

佐佐木幸綱　選

知り合いて仲良くなった人もいた区民農園二年で閉じる
東京都江戸川区　馬場武三郎

（評）人と人との出会いの不思議。わずか二年の間だったが、作者にとっては、思い出の多い区民農園だったのだ。

樹の枝を渡るは栗鼠と思ひしが赤ちゃん野猿危ふげにゆく
東京都大島町　大村　森美

（評）下句、はらはらしながら追う目。珍しい野生の赤ちゃん猿の枝渡りを見上げる、作者のまなざしが読める。

新聞の投稿歴は四十年眼底出血せしが転機で
東京都国分寺市　越前　春生

小澤　實　選

いつまでが戦後だったか冬木の芽
東京都世田谷区　野上　卓

（評）たしかに戦後ということばを最近聞かなくなっていることに気づかされた。冬木の芽の明るさが不安をかきたてる。

寒空に浮かぶ巨人の白き息
神奈川県大和市　藤井　良犬

空青し港の出船汽笛鳴る仕事始めのやはらかな朝
東京都八王子市　赤羽　克己

ライオンは見慣れているから大あくび動物園のホモ・サピエンス
埼玉県富士見市　松本　尚樹

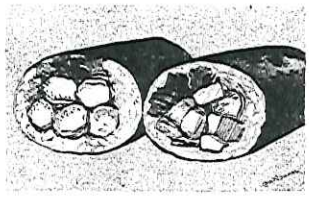
野水仙一分咲きなる土手の上犬の散歩者猫の散歩者
愛知県岩倉市　石川　順一

彫刻の町と謳へる吾が市なり橋の彫刻初日に光る
東京都八王子市　斎賀　勇

名刺など交換し合う県内の政財界の御仁集いて
埼玉県所沢市　若山　巌

乱立の杉の狭間を狙い決め無傷で倒すチェーンソーの技
東京都東大和市　温泉川清志

美しい緑を避けて橙を避け鴨鍋の鴨を追う箸
東京都新宿区　幸露倉　霧



画・松野美穂